

川 添 康 次 *Y. Kawazoi.*[illegible]

●みしまごよみ〔三島暦〕(名) 應仁・文明の頃、伊豆國三島神社から作り出した假名の細字書の暦、明治以前まで伊豆、相模の二國に限り頒布を許された。

●みしまで〔三島手〕(名) 細かい紋のある高麗焼の陶器。こみみで。

●やつしろやき〔八代焼〕(名) 熊本縣八代郡高田村から産する陶器。青灰色の素地に無色の釉薬を施し、多く白色の象眼がある。高田焼。

「十方く。」は「十方くれ」のことかも知れません。下記の「韻塞」に十方くれの句が載つてゐます。

十 方 くれ

てり曇る十方くれのあつさ哉 毛 執

以上の私の記事が何か御参考になれば幸ひです。ついでに、明治以前に作られた日、月蝕の俳句を御送りします。

日 蝕

日蝕の日に喰入るや栗の虫 李 由

月 蝕

練絹の色もうるむや月の蝕 汶 村

月蝕の露にあてまじ白牡丹 木 導

以上は元禄9年刊行の俳書韻塞(俳諧續七部集中の一書)所載の句ですが、恐らく明治以前の日、月蝕の句はこれ以外にはないものと思はれます。何故かと云ひますと、子規の松羅玉液(明治29年八月24日の頃)に子規自身の日、月蝕の句をあげた後、「因に云ふ古人に月蝕の句は一二首之を見たり。日蝕の句は未だ見しことなし」と云つて居りますから。

註: 寛保4年は學暦1744年で、此の歳には下の如き日月蝕があつたことが オボルツァの書物に載つてゐます(但し、これはグレゴリオ式の太陽暦で、時刻は世界時を用ひてゐます)。

1744年十月6日0時44分 皆既日蝕

(皆既線は北極洋に始まり、ベリリング海を横斷し、北米の加州沖にて終る。日本では、午前中、部分蝕が見えた筈)

1744年四月26日20時29分 部分月蝕 (蝕分7分2厘)

(日本では、27日5時29分に當り、夜明け前の西空にて、帶蝕として見えた筈)

1744年十月21日12時28分 部分月蝕 (蝕分5分7厘)

(日本では、21時28分に當り、日没後の東南の空に見えた筈)

(山 本 生)